



# 中筋小学校だより

校訓 ～ 強身体 正しい心 ～

舞鶴市立中筋小学校  
学校だより 2学期末号  
令和5年12月22日発行  
<http://nakasuji.maizuru.edumap.jp/>  
☎75-0372

学校HP



## 他者貢献

6年生の国語の教科書に、宮沢賢治が書いた童話「やまなし」が掲載されています。保護者の方の中にも、小学校で学習した記憶がある方も多いかもかもしれません。この「やまなし」というお話は、1962年に中学2年生の教科書に初めて掲載され、その後1971年から現在まで小学校6年生の教科書に掲載されています。国語科では、長年学習教材として取り上げられている有名なお話です。



小さな谷川の底を写した「5月」と「12月」の2枚の幻灯の中で、かのにの兄弟に起こる出来事をえがいたお話です。「クラムボンは笑ったよ」「かぶかぶ笑ったよ」など、宮沢賢治の独特の世界観や表現を味わう教材ですが、子どもたちは、さらに宮沢賢治がこの作品を通して伝えたかったことは何かという課題にも迫っていきます。「5月」という季節的には若葉が青々と茂り、明るいイメージの強い場面で、谷川の殺伐とした現実を描きます。一方「12月」では、季節的には寒く暗いイメージのある場面の中で、「やまなし」が谷川に落ちてきて、いずれ熟しておいしいお酒となり、そこに住む者たちに「幸せ」を与える様子を描きます。この2枚の幻灯の対比の中で、「やまなし」がもたらす「幸せ」。まさに賢治が理想とした「世界全体が幸福にならなければ、個人も幸福になれない」という考え方を象徴している場面だと考えます。

宮沢賢治は、死の直前まで、全然見知らぬ農家の人の肥料相談に丁寧に対応していたと言われています。このことから自己を犠牲にし、人々に「幸せ」を与えるという宮沢賢治が理想とする生き方が見えてきます。このような宮沢賢治の考え方がよく見える作品は、他にもあります。人々を救う火山爆発を起こすために自らが火山に行くグスコブドリを描く「グスコブドリの伝記」。自分が青く輝く星になり人々を照らした「よだかの星」。友達を助けるため、自らの命を落としたカムパネルラと旅する「銀河鉄道の夜」。ぜひご一読ください。

こんな宮沢賢治のような自己を犠牲にしてまで、他の人の幸せを願う生き方は、なかなか真似することはできませんが、この賢治の生き方から学び、実践できることは、他者のために貢献すること＝『他者貢献』であると思います。人はそれぞれに幸せを感じる瞬間があります。「誰かにありがとうと言われた時」「目標が達成できた時」「時間を気にせず、趣味に没頭している時」などなど、その瞬間は人それぞれです。しかし、有名な心理学者アドラーは、全ての人間に共通して「幸せ」を感じる瞬間があると言います。それは、「他人に貢献できていると感じた時」である。どんな人でも誰かに求められている、必要とされているという感覚は、幸福感につながり、自己の存在意義を実感します。そして自分という人間を好きになります。今、本校の児童を含め子どもたちにしっかりと根付かせ、高めたい力に自己肯定感があります。自分は人のために役立っている、人から必要とされているという実感が、自己肯定感の高揚につながります。

明日から子どもたちは、楽しい楽しい冬休みに入ります。クリスマスにプレゼントをもらう、お正月にはお年玉をもらう、どこかに連れて行ってもらうなど、何かをしてもらう場面が多くあります。一方家庭では、年末の大掃除や買い出し、お客様を迎える準備などしなければいけないことが山のようにあります。この忙しい年末年始にこそ子どもたちに家族の一員として、お手伝いではなく、“仕事”を位置付け、やり終えた後には「あなたが家族でいてくれてうれしい。」「よかった。」「助かった。」「ありがとう。」という喜びや感謝の“言葉シャワー”を浴びさせてください。その他者貢献の実感の中で、子どもは自己肯定感を高め、気持ちの安定や物事への積極性につながっていきます。冬休みの期間だけで十分に高められるものではありませんが、普段ではできない時間のかけ方や子どもへのかかわり方ができる時期だからこそ、ぜひ取り組んでいただけたらと思います。



暑い熱い夏から始まり、秋を過ぎ、雪もちらつく冬を迎え、3つの季節を過ごした長い2学期が、本日、無事に終了しました。子どもたちは、日々の学習ではもちろん、数多くの行事の中で大きくそしてたくましく成長しました。終業式に臨む子どもたちの表情は、満足感や達成感にあふれるきらきらとした笑顔でした。このような子どもたちの成長を目の当たりにできたのも、地域・保護者の皆様のご理解とご支援のおかげと心よりお礼申し上げます。東の間の短い冬休みとなりますが、新たな1年を迎える節目として、有意義な休みになればと思います。ご家族お揃いで、よい年をお迎えください。1年間お世話になりました。ありがとうございました。

校長 亀井 敬介 教職員一同